

活動状況報告（9月）

文化芸術コース 6期生 荒川 真央

私は9月8日に日本を発ち、9月9日にドイツに到着、シュトゥットガルト音楽演劇大学の教授に勧められたオクセンハウゼン州立アカデミーのマスタークラス※講習会※に向かいました。期間は6日間。限られた時間の中で、練習し、著名な教授陣のレッスンを受講し、聴講し、たくさん食べて（8:30 朝食、12:00 昼食、15:00 おやつ、18:00 夕食…）受講生全員が高い目標と技術を持って参加していました。

5日目の夜には受講生コンサートが催され、私はL.v. ベートーヴェンとM. レーガーの作品を演奏しましたが会場の雰囲気は始終暖かく、自分の音楽が受け入れられたような感覚・感動はおそらく一生忘れることはありません。

また、日本では「年齢を重ねるごとにドイツの音楽大学への受験・入学が難しくなる」と、歳を取ることがネガティブに伝えられることが多いですが、講師や聴衆は私のように30歳を超えた無名の演奏家をも立派な一人の芸術家・プロとして対等に話をしてきているようにこの一ヶ月間、感じています。エントリーが難しくなっていくことは事実のようですが、ドイツ国内の長期滞在、勉強をするための方法はいくつかあるようで、帰国後は若手音楽家や学生に情報を共有していければと思います。

10月はいよいよ大学が本格的に始まります。レーガーのピアノ作品のレパートリーを増やしつつ、ピアノだけに特化せず他の楽器の学生や先生とのコンタクトを取る予定です。

